

第13回

化粧品包装セミナー

— 化粧品包装へのニーズと最新技術について —

日 程：平成22年7月23日(金) 12:20~16:40
会 場：アイビーホール青学会館 サフランの間
主 催：社団法人 日本包装技術協会 関東支部

ご参加の勧め

化粧品・トイレタリー商品は、多種多様な製品が店頭に並んでおり、また日々利便性・デザイン性を向上させたパッケージが開発されており、こうした状況の中、包装設計をするにあたり考えなければならない事は、内容物特性や使用性、環境対策、デザイン等多岐にわたります。今回のプログラムでは、クチコミ情報から得るパッケージの価値とニーズについて、@cosme 運営会社ご担当者様からのご紹介に加え、化粧品メーカー 2 社から最新包装技術についてご説明いただきます。

どうぞこの機会に関係各位奮ってご参加下さいませようご案内申し上げます。

プログラム

| 時 間 | 講 演 内 容 | 講 師 |
|---------------------|--|---|
| 12:20 ▼ 13:40 | 『@cosmeのクチコミから見る化粧品におけるパッケージの価値と評価』 月間2億PVを誇る日本最大のコスメ・美容の総合ポータルサイト『@cosme(アットコスメ)』。@cosmeに投稿されるクチコミとは、美容を目的とした商品に対する投稿者自身の使用感や感想であり、まさに消費者のありのままの声と言える。 @cosmeに蓄積される780万件ものクチコミにおいて、パッケージについてよく書かれている商品とはどのような商品なのだろうか。パッケージは消費者にどのような価値を与え、それらの価値はどのように表現されているのか。また消費者の満たされないパッケージへのニーズとは何か。 本講演ではクチコミおよびユーザーデータをもとに、化粧品におけるパッケージの価値と評価を読み解いていく。 | (株)アイスタイル コミュニケーション プランニング部 リサーチプランナー 西原 羽衣子 氏 |
| 13:50 ▼ 15:10 | 『新機構を用いたキャップ付きフェイスブラシの開発』 化粧品はメイクアップ化粧品、スキンケア化粧品、そしてヘアケア化粧品の3つに大別できるが、特に日中の化粧直しを想定するメイクアップ化粧品は、容器に様々な技術・機構を導入することで、化粧ポーチなどでの持ち運びを簡便にしている。 しかしながら、持ち運びを優先すると、使用方法の難易度が上がる複雑な機構となる場合や、ブランドイメージ等の美観性を損なうパッケージとなる場合が多々ある。特に本講演で報告するジルスチュアートブランド商品は『従来の化粧品の概念を超えた新しい感性と表現方法で女性が幸せになれる宝石箱のような“カワイイ”世界』を創造したブランドであるため、化粧品としての使用性・持ち運びの簡便さもさることながら、美観性も重要な項目として開発してきた。 本講演では、上記ブランドコンセプトを反映し生み出された「ジルスチュアートミックスブラッシュコンパクト」に添付している、持ち運びを簡便にしつつ高い化粧効果を持ち、さらには美観性に優れたキャップ付きフェイスブラシの新機構開発過程を中心に報告する。 | (株)コーセー 商品デザイン部 設計課 末武 照彦 氏 |
| 15:20 ▼ 16:40 | 『資生堂の環境への取組み ～サトウキビ由来ポリエチレンを用いた化粧品容器について～』 資生堂は、化粧品容器の廃棄・焼却時のCO ² 排出を抑制することを目的に、南米最大の化学メーカー Braskem S.A が世界で初めて商業生産を開始するサトウキビ由来ポリエチレンを化粧品のボトルやチューブに2011年より採用を始める。このサトウキビ由来ポリエチレンの製造方法やボトルやチューブでの試作について紹介する。併せて、資生堂の環境対応の様々な活動について紹介する。 | (株)資生堂リサーチセンター 副主幹研究員 佐藤 達夫 氏 |

講師のご紹介

■西原 羽衣子氏

(株)アイスタイル
コミュニケーションプランニング部
リサーチプランナー

外資消費財メーカーを経てアイスタイル入社。
@cosmeメンバーを対象としたマーケティングリサーチ、
クチコミ分析業務に携わる。

*@cosme は多くのユーザの信頼を得た日本最大級の化粧品
情報コミュニティサイトであると共に、メーカー・ブランドの
枠を超えた消費者データベースでもある。(UU600万人、メン
バー数 140万人、クチコミ件数 770万件(2010年3月現在))

■末武 照彦氏

(株)コーセー
商品デザイン部
設計課

1997年4月 (株)コーセー 研究所 第二製
品開発G 所属

2002年4月 同 開発研究所 製
剤開発G

2009年4月 同 商品デザイン部
設計課

2010年7月現在 同職

■佐藤 達夫氏

(株)資生堂リサーチセンター
副主幹研究員

1982年 (株)資生堂入社、リサーチセ
ンターに所属し、容器開発全般を担当。
2008年より環境研究を担当。

講演要領

日時：平成22年7月23日(金) 12:20~16:40

会場：アイビーホール青学会館 サフランの間
東京都渋谷区渋谷4-4-25 TEL.03-3409-8181

参加費：会員19,950円(消費税・テキスト代含む)
一般24,150円(消費税・テキスト代含む)

定員：100名

お申込み方法

■本紙申込書に必要事項を全てご記入の上、FAXにてお申込み下さい。
協会ホームページからお申込みできます。

*協会ホームページ：<http://www.jpi.or.jp>にてホームページを検索し、
各種・催事から「第13回化粧品包装セミナー」を開いて下さい。
ページ末の申込みフォームに必要事項をご記入して送信下さい。

■申込みされた方には、後日参加証と請求書をお送りします。

■当日、ご都合が悪くなった場合、代理の方の出席は差し支えありません。

(受付にて名刺をご提出いただきます)

*会場でのお弁当のお持込みは出来ませんのでご了承ください

お問合せ並びに申込み先

(社)日本包装技術協会 関東支部 化粧品包装セミナー係 担当：竹内
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
TEL. 03(3543)1189 FAX. 03(3543)8970
e-mail:takeuchi@jpi.or.jp

【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「第13回化粧品包装セミナー」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、個人情報を第三者に開示・提供することはありません。

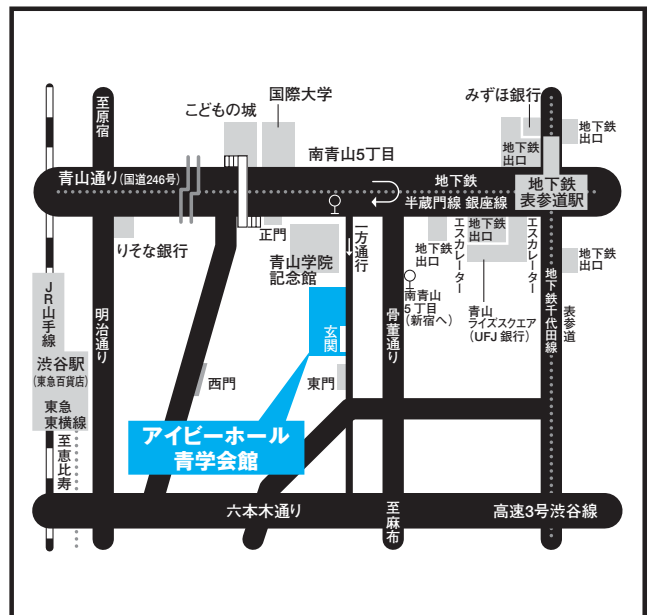
会場案内図

■交通手段

地下鉄 銀座線・半蔵門線・千代田線

表参道駅下車 (B1、B3出口より徒歩5分)

都営バス (渋谷駅前↔新橋駅北口) 南青山五丁目下車



第13回化粧品包装セミナー (7月23日開催) 参加申込書

社団法人 日本包装技術協会 化粧品包装セミナー係 担当：竹内 FAX.03(3543)8970 No.

| | | | | | |
|-----|---------------------------|----------|--------|--|--|
| 会社名 | JPI会員・一般 (どちらかに○を付けてください) | | | | |
| 所在地 | (〒) | | | | |
| 電話 | F A X | | | | |
| 参加者 | 氏名 | 所属 役職 | e-mail | | |
| | 氏名 | 所属 役職 | e-mail | | |
| | 氏名 | 所属 役職 | e-mail | | |